

“物価上昇また春斗の時至たる”

2月の水戸市消費者物価指数によると、総合指数で前月にくらべ0.7%の上昇をしている。また前年同月にくらべると3%の上昇となり、物価は休みなく上昇を続けているようである。サクラも咲き行楽のシーズンの訪れとともに例年のように、この物価上昇に対抗して賃金値上げの労働攻勢が始まる、称して春斗と呼ばれるこの斗争も、このように毎年、毎月上昇する物価では自分達のくらしを守るために当然のように考えられる。

“帳簿みな新らしくなり新年度”

4月から始まる会計年度、3月31日から4月1日にかけては私達の日常生活においては何んら変わったところもない毎日の繰り返しの1頁であるが、諸官公庁などでは4月1日から新年度となつて、予算も新たに気分一新して新しい事業に取り組むことになる。それぞれの職場における諸帳簿類は表紙もきれいに翌年3月末日までは苦楽を共にするわけである。

“大学を出て故郷は遠くなり”

学卒者にとつて希望の4月、それぞれ一生を賭けた職業を背負うことになる。就職のための看板としての大学は最近とくに狭き門となり志願者を数かせているわけだが、ひとたび入学をし4年間の学業が実を結び背広も嬉しいサラリーマンになつて、都会に住みついてしまうと故郷は老人とともにだんだんと忘れられてしまうようである。昭和40年度に大学を卒業した学生の数は全国で162,349人、大学院6,851人、短大55,728人である。

“合格へ教育ママの鼻高く”

毎年、上級学校へ狭き門を目指して受験する多くの子等、最近終戦ツ子の大学受験で競争は激化、この激しい闘いに打ち勝つて待望の制服に身をつまみ、みんなから祝福されて晴れの大学生となる。近ごろの教育ママと言われるお母さん族の鼻がますます伸びようというもの、昭和40年度の大学志願者は1,203,337人、(男1,034,444人、女168,893人)であり、このうち同一人が二校以上受験するものもあると考えられるから実人員はもつと少くならうが、このうち入学した者は249,917人(男205,685人女44,232人)で現役組は180,242人(72.1%)浪人組が69,306人(27.7%)その他369人となつており、

やはり現役組に分があるようだ。

“サクラ咲き統一選挙の候となり”

昭和42年は選挙の当り年、年の始めに行なわれた市議会議員選挙を皮切りに、4月15日の知事選挙、28日の市町村長、市町村議会議員選挙と4月は選挙の嵐が絶えることがない。統一選挙として行なわれる32市町村の選挙は、身近なものだけにお祭り騒ぎの賑やかさ、市町村長、市町村議会議員の選挙の争われるのは32市町村であり、このうち2市9町村が市町村長の椅子を28人で争い、12市1町村の378議席をめぐって842人が激しい斗いをくりひろげる。

“日の丸の少ない旗日に

みる世相”

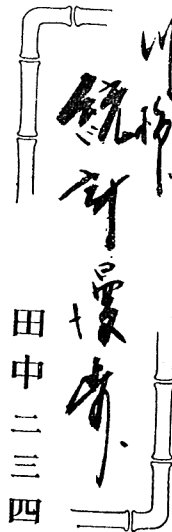
4月から5月にかけて、祝祭日が増えサラリーマンにとつては、もつとも羨ましい休みがつづく。その皮切りが4月29日の誕生日である。戦前であれば各戸に国旗を掲げてこの佳日を祝福したものが多かったが、現在では国旗を掲げる家は少なくなつてしまつて、世の古老達をなげかせるようだ。

“丙午終われば

ドンドンと産み”

最近の若い人達は、子供をあまり産まなくなつてたいいは2人からせいぜい3人どまりのようであるが、昨年は丙午の年であつたためか、明治中期以来本県の出生台の27,991人という出生数を記録して前年よりも減つた。

ところが、丙午が去つた昭和42年はその反動でもあろうが、非常に子供の生まれる数が多くなつたようである。しぶりのベビーブームを現出するのではないかと言われているようだ、人口動態に表われた1月からの出生数を昭和40年(平常の年)と比較してみると、1月は4,500人の出生で40年の3,887人より672人(15%)も多く、2月は3,817人で3,439人より378人(11%)の増、3月は3,616人で3,561人より595人(15%)の増で、この3ヶ月間だけでもいづれも10%以上多くなつているから本年は出生の出生が予想されることである。



②

第18回茨城県統計グラフコンクール募集要領きまる

県、県教育委員会および県統計協会が主催して行なわれる第18回茨城県統計グラフコンクールの募集要領がここにきまりました。

このコンクールは、第15回全国統計グラフコンクール県予選を兼ねて行なわれるものである。本県の作品は今までに全国特選ほか上位入選しており、今年も期待されている。募集要領はつぎのとおり。

1 主 催

茨城県・茨城県教育委員会・茨城県統計協会

2 目 的

県民に対する統計思想の普及向上と統計の表現技術の研さんおよび統計教育の推進に資するものとする。

3 応募資格

第1部 小学校の児童（1年～3年）

第2部 〃 （4年～6年）

第3部 中学校の生徒

第4部 高等学校以上の学生・生徒

第5部 一般

4 課 題

グラフの課題は各部とも自由とする。ただし、第1部、第2部および第3部については、次の条件を付するものとする。

- (1) 第1部、第2部（小学校の児童）の作品は、児童が観察した結果をグラフ化したものであること。
- (2) 第3部（中学校の生徒）の作品は、既存統計の利用または生徒が観察した結果をグラフ化したものであること。

5 材料の規格

- (1) 第1部、第2部、第3部の用紙規格は、728cm×51.5cm（B2判仕上寸法）とする。
- (2) 第4部、第5部の用紙規格は、103cm×72.8cm（B1判仕上寸法）とする。
- (3) 各部とも紙質、各彩（単色にて可）その他の材料については自由とする。

6 送 付 先

茨城県開発統計課（水戸市三の丸1丁目5番38号）

7 締 切 日

昭和42年9月9日まで（必着のこと）

8 応募上の注意

- (1) 応募作品の裏面には、住所、氏名、性別、年令および職業（児童生徒または学生の場合は、所属学校名、学年）を明記すること。
なお、住所、氏名、学校名には必ず「ふりがな」をつけること。
- (2) 各部とも必ず統計表を添付すること。ただし、自

己の観察によらず他から資料を取った場合は、その取材資料の出所も明記すること。

なお、統計表（取材資料の出所を含む。）は、25.7cm×18.2cm（B5判仕上寸法）の用紙に書き、作品の裏側に3cmの「のりしろ」ではり付けること。

9 指導上の注意

児童、生徒に指導する際は、次の事項に特に留意すること。

- (1) 資料の選択及び取扱い方に対する指導者（先生）の示唆助言等は差し支えないこと。
- (2) 表現（グラフ）の段階では、児童、生徒の自主性を尊重し、指導者（先生）が技法的に介入しないこと。

10 審 査

(1) 審査員

県統計課、県教育庁および県統計協会の役職員

(2) 審査基準

応募作品は、次の基準によつて審査採点する。

- | | |
|-------------------|-----|
| (ア) 資 料（適正な選択と加工） | 50点 |
| (イ) グラフの表現技術 | 50点 |

なお、各部とも（第1部および第2部については合わせて1部として取扱う。）上位5点ずつを選び全国統計協会連合会（第15回全国コンクール）に推薦する。

11 入選発表

入選者の発表は、42年9月下旬に本人または所属学校長あて通知する。

12 入選区分および賞

各部とも

- | | | |
|-----|---------|-----|
| 1 席 | 知 事 賞 | 1 点 |
| 2 席 | 教 育 長 賞 | 2 点 |
| 3 席 | 統計協会長賞 | 3 点 |
| 佳 作 | 統計協会長賞 | 5 点 |

なお、優秀な作品を数多く出品した学校があつた場合には、「学校賞」として統計協会総裁から記念品および賞状を授与する。

13 応募作品の所属

応募作品の著作権は、主催者に帰属する。

14 展示および表彰

昭和42年に行なわれる第9回茨城県統計大会の席上において、展示および表彰を行なう。

15 そ の 他

不明な点については、県統計課（電話水戸(0)5505）に照会のこと。